

さぬき市総合計画審議会 第2回会議要旨

1 日 時 平成23年10月27日(木) 9:30~11:45

2 場 所 さぬき市役所2階203会議室

3 出席者 [委員] 中島 十川 杉 小野
森安 渡辺 千田 中山

[事務局] 安富総務部長 向井政策課長 山下主幹

[傍聴] 1名

4 議 題 基本計画(前期)の評価について

5 資 料 資料6 前期基本計画取組事項の達成状況報告書

資料7 前期基本計画施策の評価報告書

資料8 基本計画(後期)の各分野における「現状と課題」

6 会議の内容は次のとおりである。

(1) 会長のあいさつ

○後期基本計画を作るにあたっては、現状の評価は重要なことであるし、その現状の評価にしたがった課題を抽出して有意義な提案をしたい。

(2) 総務部長のあいさつ

○前期基本計画は、市民の方の市民会議での意見を踏まえて策定したものであり、策定に携わった方々の思いを、取組の評価を通じて再認識したい。

○市民アンケート、当会議の意見を踏まえて後期基本計画の策定を進めたい。

(3) 議題「基本計画(前期)の評価について」に関する市の説明概要

【全体】

○前期基本計画は、8つの施策と8つの施策の下に143項目の取組事項で構成されているので、資料6で取組事項を、資料7で施策を評価している。また、資料8は、前期基本計画の評価を踏まえて現状と課題をまとめている。

○前期基本計画取組事項の達成度は、5段階の評価基準に基づいて取組事項の所管課が自己評価する方法により算定した。

○前期基本計画取組事項の達成度の全体平均は、65.4%であった。

○市民アンケートの結果、重要度が高いにも関わらず満足度が低い項目は、「市職員の意識改革」「企業誘致」「統廃合による市の事業費の抑制」「安心して医療が受けられる環境」「安心して子どもを生み育てられる環境」などであり、満足度を高めるための施策の推進が必要になっている。

○前期基本計画策定時に平成22年度の人口を56,343人と推計したが、実績値は53,865人で、人口減少が推計よりも速く進行している。

【施策1 活力ある産業基盤づくり】

○前期基本計画取組事項の達成度は、48.6%であった。

○製造や加工を行う従業員4人以上の企業数や農林水産業の経営体数は減少して

いる。

【施策2 行政改革による健全な財政基盤づくり】

- 前期基本計画取組事項の達成度は、54.5%であった。
- 計画時と現在の財政指標を比較すると、経常収支比率は91.2%から88.4%に、公債費比率は15.0%から11.5%に、財政力指数は0.455から0.441になっており、財政が健全化する方向で推移している。
- 「市職員の意識改革」についてのアンケートでは、「満足」と回答した人は15.3%、「不満」と回答した人は60.4%であった。

【施策3 暮らしを支える安心快適なまちづくり】

- 前期基本計画取組事項の達成度は、63.8%であった。
- 自主防災組織の結成率は、平成17年度35%から平成22年度62%で、自主的な防災対策の取組が進んでいる。
- 市民アンケートの自由意見では、コミュニティバス、道路整備、鳥獣被害対策などに関する意見が多かった。

【基本施策4 市民が主体のまちづくり】

- 前期基本計画取組事項の達成度は、60.7%であった。
- ボランティア団体の登録件数は、平成16年度58件、平成22年度68件で、ほぼ同じ団体が活動している。
- 市民アンケートの自由意見では、人口減少対策、コミュニティ活動の活性化に関する意見があった。

【基本施策5 情報と交流連携のまちづくり】

- 前期基本施策の達成度は、66.7%であった。
- 市民アンケートの自由意見では、「イベントを集約したほうがよい」の意見があった。

【基本施策6 健康な心身と思いやりをはぐくむ健康・福祉のまちづくり】

- 前期基本計画取組事項の達成度は、77.0%であった。
- さぬき市民病院は、建設が進んでおり、平成24年1月末頃から新病院での診療を開始する予定になっており、市民の親しまれる病院にしていくことが課題になっている。
- 健康づくりの取組は、健康応援団体操の考案、普及や生活習慣病の予防、育成、食生活改善の推進などの取組が行われている。

【基本施策7 主体性・創造性・生きがいをはぐくむ教育・文化のまちづくり】

- 前期基本計画取組事項の達成度は、70.7%であった。
- 学校再編計画の推進が大きな課題となっており、平成21年度に志度小学校末分校を志度小学校に統合し、平成22年度には、津田小学校との統合により鶴羽小学校を閉校しており、現在、長尾小学校と多和小学校、天王中学校と大川第一中

学校の統合及び志度東部地域の小学校の再編に向けて取り組んでいる。

【基本施策8 自然環境保全と環境に配慮したまちづくり】

- 前期基本計画取組事項の達成度は、66.7%であった。
- 一般廃棄物のリサイクル率は、平成15年度29.3%、平成22年度27.3%となっている。また、市民一人当たりのごみ排出量は、平成15年度883g、平成22年度573gであった。
- 市民アンケートでは、「自然の保全活動」「ごみ収集、処理対策の充実」の項目において、「満足」と回答した人が「不満」と回答した人を上回っているが、「太陽光等の活用」「植栽などの緑化活動」「騒音、振動、悪臭等の防止」の項目において、「満足」と回答した人が「不満」と回答した人を下回った。

(5) 委員の主な意見

【全般】

- 評価報告書10ページ「ムダを生みだすシステムの改革が重要である」とあるのは、ムダを生みださないようにしなければならないので確認いただきたい。
- 評価報告書は、悲観的な見方ばかりで書くのではなく、「こういうことができた」というようなことを書いたほうがよい。
- 合併して10年が経過したので、魅力あるものが何かはあるはずである。そういう魅力をアピールすることが、多くの人に「住んでいてよかった」と思ってもらえるし、「住んでみたい」と思わせる要因になる。
- 負の部分の評価することは大事だが、いいところはアピールして、「こんなまちにする」という意志をもっと出した方がよい。
- 33ページ以降に満足度と重要度をまとめているが、重要度の順位の1位から26位までの項目のうち3分の2は、満足度の27位から56位までの項目になっている。今後繰り返さないように、進歩するようにこうした項目を踏まえて後期基本計画を策定しなければいけない。

【産業】

- 企業誘致で企業が判断する材料の一つに水の確保がある。香川県は水に関してはマイナスイメージが定着しているので、さぬき市の水事情というものをアピールするとポイントになる。
- TPPの問題が報道されているが、後期基本計画の策定にあたっては、そういう状況も考慮しておく必要がある。

【行政改革】

- 行政改革において、「職員の資質が悪い」「対応が悪い」などの職員を追求するような多くの負の意見が寄せられるが、「さぬき市の職員になりたい」と思わせる環境を創ると、いい人材が集まる。
- 給与カットは、削減した経費を必要な施策に充て、市民の満足度を高めるために

行うものであるが、どのような満足感が得られたのかということが検証しなければいけない。「市職員の資質を向上させる」「優秀な人材を登用する」ということに着目すれば、一律に実施するよりも、職員数を減らして全体経費を抑制するという方法もある。

- 職員数の削減について、幼稚園では、正規の教諭でない方、1年契約更新の嘱託の方が多い。正規の職員の数も、責任ある幼稚園教育を行う上でぎりぎりのところにきている。嘱託職員の方は一生懸命に職務を遂行されているけれども、奉職によって生じる責任の観点から採用方法については一考あるべきだ。
- 職場の魅力に関して、給料がよければ魅力があるのかということではなく、人のつながりが大切だ。「行きつけの店」というものがあるように、さぬき市も、そういうものを大切にすることが必要である。
- 何かに向けて前向きに取り組むということは重要なテーマである。
- 事業の統合や効率化を優先することをよく言われるが、地域は地域の良さがあるから、これを統合して一つにすることはできない。地域の特性を生かすような取組が必要である。

【広報・市民参画】

- 「市役所はなかなか動いてくれない」などの意見を聴く。これは、市民に「伝えきれていない」という広報の方法に課題があるために、市民に誤解が生じている。
- 21世紀館寒川で展示をする場合に、終わった後に、ケーブルテレビで放送が行われる。「どのようなことが行われたか」を知ることも必要であるが、主催者としては、「このようなことを行うので多くの人にきてもらいたい」ということを伝えることも必要である。
- 市長や市の職員の一日を追いかけて、こんなに多くの事務をこなしているということをケーブルテレビで放送すると相互の理解が進むのではないか。
- さぬき市の情報は、探していかないと入手できない。探していくといい情報があったりする。情報は1回きりでなく、方法を変えて、いろんなところでもっと目につくように広報してほしい。
- 「過ぎたイベントがいつまでも放送されている」「情報掲載が遅い」などのようなことがあると、市役所のイメージが下がるので残念なことだ。
- ボランティアがさまざまな活動を行っている。こうした情報を市報などに積極的に掲載してもらいたい。
- 最近のテレビは、データ放送という手法もあるので、こうした手法を活用してより多くの情報を必要な時に入手できるように充実させてほしい。
- さぬき市の農林水産業、例えばハマチの生産から出荷まで追いかける、お米作りを追いかけるなどをケーブルテレビの番組にすると、身近な状況がよくわかるのではないか。

- 各種附属機関があつて、審議委員が選任されているけれども、これからを担う若者を登用して意見を取り入れてほしい。

【情報化】

- さぬき市のブロードバンド化は、あまり進んでいないのではないか。
- 産業、行政改革、福祉、教育などいろんな分野でIT化ということが課題になっているが、なぜか先が見えていない。ケーブルテレビをしているということだけでなくて、「どのような状況にするのか」具体的な指針を作って、将来が見えるようにするべきだ。

【教育】

- 学校現場でも一人一台パソコンや電子黒板の活用を行っていてIT化が進んでいる。
アメリカのある学校では、従来の教科書を廃止し、教材は生徒が手持ちの端末機で個々にダウンロードし、教師からの指示も全てパソコンを通じてということであるとか。学校がそれでいいのかと疑問に思う。
教育界でよく言われることばに「不易流行」があるが、黒板にチョークでという授業形態は、古臭いようではあるが、教育の「不易」の部分であると思う。また、教育（学習）は、学校という施設、キャンパスがなくても可能という見方もあるが、教育・学習文化の継承には、学校という、教師と生徒が、生徒同士が生で触れ合う場、環境が必要である。パソコン万能教育で人と人との真のつながりができるのかということを考えてしまう。
- 教育の基本的考え方は、文化を伝承するということで、「面と向かって会話する」でないと全てを伝えられない。文明はパソコンで入手できる。